

頭張れ店長

地域とつながる祭りへ参加

夏から秋にかけては全国的にお祭りの季節です。われらのホールが地域の企業として参加するケースも少なくありません。地域の仲間と認められているわけですが、朝から夜遅くまで店の営業を続けながら限られた人手の中で、どのようにお祭りに参加しているのでしょうか。各地の店長さんに聞きました。

店長世話役、半数が楽しむ

「もう十数年も前から地元の秋祭りに参加しています。例年、祭礼協賛金を寄付し、祭りのぼんぼりに店名を入れてもらい、店の前には神酒所を設け、店のスタッフを御輿の担ぎ手に出しています。祭りは2日間あり、2日とも店のスタッフの半分が参加します。そのままでは店舗営業ができないため、本社営業部の理解もあって系列チェーン店から応援が来てくれます。店長は恒例で祭りの世話役のメンバーになるので、私は祭りの2週

間前から寄り合いに顔を出して、すっかり身内扱いをしていただいています」（中部・A店長）

女性スタッフを含めて町内の祭り半纏を着て参加するそうです。若い従業員が多いホールは、御輿の担ぎ手として期待されているとA店長は言います。

「今年も8月下旬にうちの駐車場を夏祭りをやりました。お祭りのない地域なので、10年くらい前に当時の店長が町内会に呼びかけて始めたそうです。舞台を設営して、地元のサークルが民謡や合唱を披露し、カラオケ大会もやります。屋台ではかき氷、ボールすくい、綿アメ、焼きそばなどを用意します。機材をレンタルで借りて、店のスタッフが総出で腕をふるうのです。暗くなってからは、小規模ですが花火も打ち上げます。2日間で延べ3000人くらい集まりました」（関東・B店長）

今年も警備保障会社に警備を頼むほどの人出だったそうです。

町の人間になつた気が

「うちの地域は毎夏、阿波踊り祭りをやるので、店として連をつ

くって参加しています。お揃いのハッピを着て、祭りの1か月前から駐車場練習を繰り返して盛り上げています。今年は徳島出身のスタッフが、故郷に帰って特訓を受けてきて、皆を指導してくれたので本格的な阿波踊りになりました。もちろん店としてもビールやお酒を差し入れ、観客整理のために人手も出します。祭りは1日だけなのですが、踊りに出るスタッフだけで十数人いるので、当日のホール営業はアルバイトを総動員するなどやり繰りしています。マネジャーは勤務シフトを組むのが大変だとこぼしています」（関東・C店長）

初めて参加した店のスタッフは、これで町の人間にな

店長からの投稿

7~9月の3か月間、地区の遊技場組合で申し合わせて月3回の輪番休業を実施しました。事前にポスターを掲示し、チラシも配って周知を図ったのですが、

それを知らずに来店なさるお客様もいると思い、店休日にはスタッフを店の入り口に配置しました。やはり知らずに来店なさるお客様も多く、節電のために休業していることを説明すると、「それは感心だ。見直したよ」と誉められたり、「無駄足になったけど、あなた達も店を開けられなくてつらいだろう」と同情されたり、おおむね好意的でした。パチンコをやらない人からも、他の業界はそこまでやらないのに、営業収入を犠牲にしてもやっているパチンコ業界は偉いと評価をいただきました。輪番休業による逸失利益は大きかったのですが、世間の評価をいただければ「災い転じて福となす」ということになります。（関東・店長）

「それは感心だ」 「あなたらも辛いね」 好評だった店休日

練習や会場は「駐車場」

「夏は店の駐車場で盆踊りをやります。もう20年になります。近所に空き地がなくなつたため駐車場が会場になつたそうです。運営は町内会でやってくれますが、店としても応援を出して、やぐらを組んだり、

つた気がすると喜んでいそうです。

日本では認められない司法取引 時間の節約、重要捜査に役立つが えん罪を生み、偽証の可能性も

大阪府のホールで2008年9月に現金約1000万円が奪われた事件で、大阪府警が別の窃盗容疑で逮捕し、覚醒剤事件の関与が疑われた男に「強盗を自白すれば覚醒剤を立件しない」と取引を持ちかけた疑いが浮上しました。いわゆる司法取引です。

日本で司法取引は認められていませんが、米国では一般的に行われています。司法取引のメリットは、刑罰を減刑する代わりに、裁判にかかる時間と費用の節約になり有罪を獲得できる、より重要な犯罪捜査の進展に役立つ情報を得ることができるといったことがあげられます。一方、検察官による脅しや被告人の無知で罪状を認めるなど、えん罪を生みやすい、真犯人が重刑を避けるために司法取引を行って偽証を行う可能性がある、公正であるべき司法の場で取引を行うことは法の公正さを損なうといったデメリットも指摘されています。

冒頭に紹介したケースは、男が強盗事件の公判で強盗罪を認めていましたが、覚醒剤取締法違反で追起訴されると、一転して「強盗の計画はしたが、犯行には加わっていない。覚醒剤事件は起訴しないという約束を反故にされた」と否認したのです。

裁判長は、司法取引の疑いは否定できないとして、男の自白調書を採用しませんでした。共犯者（強盗罪で実刑判決確定）の公判証言などから強盗と覚醒剤事件への関与を認定し、2010年11月、懲役10年を言い渡しました。現在、被告側は控訴して係争中です。

（監修・日遊協顧問弁護士 堤義成、同 岩本康博）

会場整理をしています。メインの駐車場が丸一日使えず、車で来店するホールのお客様には第2駐車場を利用していただいています。満杯でお断りするときには事情を説明しますが、それは楽しそうだと皆さんに納得していただいています」（中部・D店長）

店は会場運営に協力するだけでなく、盆踊り好きのスタッフは、勤務を早番にしてもらい、仕事を終えると浴衣に着替えて踊りの輪に加わるそうです。

川や空や献血活動

地元のお祭りに参加するホールは、日頃の地域貢献にも積極的にです。どんな活動をしているのでしょうか。

「うちは清掃活動に力を入れていきます。店の周辺や駐車場は毎日掃除していますが、月に1度は足を伸ばして川や空き地などを清掃しています。市の許可を取った上で、川に入ってゴミをさらい、自転車や家具などの粗大ゴミを引き上げ、

トラックで処理業者まで持って行きます。店のスタッフ5、6人を動員して半日がかかります。勤務扱いにしています。今年の夏は輪番休業を利用して、店休日にスタッフを大量動員してやったので、だいぶ片つきました」（中部・A店長）

目に見えて成果が出る清掃活動はわかりやすい地域貢献といえます。

「うちは地道ですが、年に2回、献血活動をしています。献血車が店の駐車場に来て、スタッフとお

客様が献血に協力します。スタッフに強制はしませんが、貧血気味の女性スタッフ以外は400ミリリットル献血や成分献血をやっています。お客様にも店内放送で告知し、協力いただいた方には景品詰め合わせセットを差し上げますと呼びかけています。おかげでスタッフを含めて毎回100人近くが献血に協力しています」（関東・B店長）

3年前からやっていますが、ホール駐車場での献血だけでなく、自分で献血ルームに足を運んで献血するスタッフもいるそうです。

リハビリにパチンコ大会

「遊技機の入替えに伴う店休日を利用し、市内のリハビリ施設の入所者を招いてパチンコ大会を行っています。獲得玉数に応じて景品を出すので、手が少々不自由な人でも、懸命にハンドルを握って玉を打ち出しています。施設の責任者にはリハビリになると喜ばれています。また、市内の児童養護施設には、こどもの日とクリスマスに菓子や玩具をプレゼントしています。もちろん、クリスマスには私たちがサンタ姿で大きな袋を担いで持参しています」（中部・D店長）